

第 12 回 観音寺市民会館開館準備実行委員会【要約】	日時 平成 27 年 12 月 21 日(月)19:00~21:00
	場所 観音寺市役所 2 階 201 会議室
出席者	委員 11 名、事務局 3 名、事務局補 2 名
議題	(1)第 11 回議事録(要約)について (2)開館記念事業について (3)その他
<p>1. <u>開会</u> 開会のあいさつ。</p> <p>2. <u>委員長あいさつ</u> 委員長のあいさつ。</p> <p>3. <u>議題</u></p> <p>(1) <u>第 11 回議事録(要約)について</u> 資料を元に議事録(要約)について説明。確認の後、内容を承認。 承認された議事録を市のホームページで公開する。</p> <p>(2) <u>開館記念事業について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局から開館記念事業についての説明 ・市議会への中間報告の中で、「市民が望む(期待する)有名な歌手の公演がリストに入っていないが、検討されているか。」「高齢者に向けたプログラムが少ないようだが検討されているか。」という質問を頂いている。 ・小ホールのこけら落としについて検討していただきたい。 ・16 日に市民会館の指定管理者候補が選定されたことを市 HP にて公表した。 ・現在開館記念事業として予定している市民ミュージカルを、一周年記念事業として行うことについてご意見をいただきたい。 <p>■ 有名人及び高齢者向けの催しについて</p> <p>【委員質問】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「有名歌手のコンサート」について、入場料等は「安価」と書かれているが、有名な歌手を呼べば安価では無理ではないか。 <p>【事務局回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いわゆる「記念事業」として、無料や安価な催しが行われるというイメージを持った人が多いとのことだ。有名な方だと無料は難しいと思うが、通常 5,000 円~6,000 円の公演が、2,000 円~3,000 円程度で見られるという印象ではないか。 ・旧市民会館の開館記念事業では、三波春夫が 2 日間、1 日 3 公演を行い、市民を招待した。他には、笑点のテレビ収録を行った。 <p>【委員質問】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者向けの催しについては、前回も何か考えたほうが良いだろう、という意見があった。具体案があればお願いしたい。 <p>【委員意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芸人 A を推薦。講演会ではあるが、高齢者の方にも良いと思う。 <p>【委員質問】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演会についてのご提案をいただいた。皆さんのイメージとしては、歌や落語などのイメージが強いか。 ・例えば、有名な歌手を呼ぶということについてはいかがか。 ・姉妹都市ゆかりの歌手 A を推薦。 	

【事務局意見】

- ・来ていただけるのであれば、姉妹都市というゆかりのある方は良いと思う。

【委員質問】

- ・例えば、1日2回公演で800万円かかったとすると、チケット料金はどのような設定になるのか。

【委員意見】

- ・旧市民会館の開館記念では無料で招待したが、これからの時代は、プロには相応の対価としてチケットを購入して観る、という感覚が必要となる。昔は財政が豊かだったかもしれないが、今の財政では無料公演を続けていくことはできない。長い目でみれば、無料公演はかえって良くないのではないかと。

【委員意見】

- ・以前は民間企業が利益還元の意味も含め無料公演などを主催していたが、今の時代では難しい。
- ・受益者負担の原則として、いくらかの対価を払うことは求めねばならない。

【事務局意見】

- ・料金のイメージとしては、2,000円なら2公演分集客できるが、3,000円にすると難しいか。

【委員意見】

- ・歌手ではないが、芸能人Bと、若手演歌歌手などを合わせて1公演とすることも考えられると思うがいかがか。

【委員意見】

- ・芸能人Cを推薦。

【委員質問】

- ・有名歌手のコンサートと高齢者対象の演目は、兼ねても良いのか。

【事務局回答】

- ・兼ねても良いと考えている。

【委員意見】

- ・お笑い系で、観て楽しい方を呼ぶのも、ひとつの選択と思う。

【委員意見】

- ・歌手Bも難しいかもしれないが、参考のために問い合わせさせていただきたい。

【事務局回答】

- ・推薦のあった公演について検討する。

■小ホールのかげら落とし公演について

【委員意見】

- ・前回の委員会にて、小ホールのかげら落とし公演は、観音寺市にゆかりのある演奏家の公演としてはどうか、という意見が出されていた。事業費があまり多く必要になることはないだろう。チケット料金は3,000～3,500円程度かと思う。

【委員意見】

- ・小ホールのかげら落としは、室内楽も検討していただきたい。

【委員意見】

- ・室内楽の公演は、記念事業としてやるのか、定期的開催し、定着した形の事業にするのか、という検討も必要である。今は特別であるかげら落とし等のことを検討しているので、日常の事業として実施可能な規模の公演は、指定管理者に任せて良いと思う。

・小ホールの記事事業は、どの程度の規模を設定するのか。また、小ホールは市民利用も多いことが予測されるので、ホールが空いていない可能性も考えないとならない。特に、土日は市民利用の希望が集中するだろう。

【委員意見】

・小ホールは、国際音楽フェスティバルに出演している音楽家単独のコンサートを実施することや、国際音楽フェスティバルとの連携も考えられる。

【委員意見】

・私が聴きたいと考えているのは、津軽三味線である。近々、マリンウェーブにてワンコインの津軽三味線コンサートが実施される。今年の1月には1,000円で実施されていたが、満席に近かった。演奏者は4名いらっしやっつた。

【委員意見】

・三味線のプロでも、どの方を呼ぶのかで報酬が大幅に違う。小ホールで津軽三味線は非常に良いのではないか。

【委員意見】

・開館記事事業として実施されなかったとしても、本委員会で様々な意見が出されたことは、指定管理者にもお伝えし、検討していただくこととなる。

■市民ミュージカルについて

【委員質問】

・開館記念ではなく、一周年記念として市民ミュージカルを実施するという提案についてはどうか。

【委員質問】

・育成支援を行うことをアピールすることで顧客を確保しようという意図なのか。

【事務局回答】

・例えば、今から新規で事業を立ち上げたとして、開館までに間に合うのか、という不安もある。

・一周年記念であれば、開館後のホールを利用して練習などができる点はメリットであると考えている。

【委員質問】

・開館記事事業とは、開館後1年間で、新しい市民会館の方向性を示した事業を展開することだったと記憶している。その1年間で、見える形で育成事業に取り組まねばならない。1年遅くすることで、どのような意味があるのか。また、行政として育成支援をどう考えているのか。1年遅らせて内容を充実させたいという考えか、早い時期から育成事業に積極的に取り組んでいるということを示したいのか、どちらの考えからのご提案か。

【事務局回答】

・事業として、しっかりとしたものになりたいと考えている。個人的な意見ではあるが、市民ミュージカルを開館の時期に実施するのは難しいと思っている。市民会館の施設を活用し、育成事業を積極的に行っていることをアピールしていくのも一つの案ではないかと思っている。

【委員意見】

・市民ミュージカルの体制についても検討せねばならない。

【事務局意見】

・市民ミュージカル活動を行っている既存団体がいくつかある。その方々に声をかけ広げていくのか、ゼロから立ち上げるのかにもより体制が変わるが、現段

階では決定していない。

- ・「発表すればよい」のであれば開館にあわせることも可能であると思うが、それなりのクオリティを求めるのであれば、1年間時間をかけたほうが良いかと思う。

【委員質問】

- ・指定管理者としては、所管の施設を使い育成をすることになる。どの時点で育成支援に取り組んでいることを市民にアピールできるのか。

【委員意見】

- ・市民ミュージカルの母体となり、中心となって事業を推進していく母体を作り上げないとならないと思う。

【事務局補佐意見】

- ・ご指摘の通り、育成普及は継続して市の事業として行っていく必要がある。指定管理者は有期限であり、5年後には他の団体に変わる可能性がある。指定管理者には市民ミュージカルの支援を求めねばならないが、指定管理者が変わったとしても仕組みが途切れないよう、今から考えていかねばならない。

【事務局回答】

- ・指定管理者に任せきりにするつもりはなく、市としても取り組む方針でいる。

【委員意見】

- ・母体がなければ長続きしない。母体があれば、指定管理者は母体を支援していくという形になる。その運営母体をうまく作れるかどうかにかかっている。

【委員意見】

- ・昨年、マリンウェーブに声をかけていただき、マリンフェスタに合わせた発表を行った。三豊・観音寺地域を中心に子どもを集めたが、それだけでは公演ができないので、既存の活動団体を合わせて実施した。どちらかだけでは難しかったのではないかという印象がある。

【委員意見】

- ・市民ミュージカルは人を集めることから始まり、多くの人がエネルギーを注ぎ込まなければ実現できない。中心となって動いてくださる方が何名か集まれば、実施することが可能だろう。

【委員意見】

- ・市民ミュージカルは3年目になるが、1年目は県の補助事業で、市民団体が主催という形だった。また、舞台がないところで発表をしたので、舞台設営などは主催側で実施した。
- ・2年目からは県の事業としては継続しなかったもので、主催を引き継ぎ、今年で3年目となる。形としては1年目の運営規模が一番大きく、良かったかと思う。ただし、年数を重ねるとスタッフの経験も蓄積されるので、段取りやコミュニケーションなどは円滑になり、効率的に実施できている。

【委員意見】

- ・先に繋がる事業として実施を考えている。第1回目は、まず土台を作ることが肝要である。

【委員意見】

- ・市に根付いていないものをゼロから実施するのは難しい。だが、すでに3年の経験がある団体がいらっしゃる。その団体を育てていくことは可能である。
- ・5年間の指定管理期間中に、市民ミュージカルをどのレベルまで持っていくのかを計画し、段階的に取り組まなければならない。

【事務局意見】

- ・最低限、5年間継続して育成することは打ち出していかなければならない。だが、それを行政から強制することはできないので、指定管理者とコミュニケーションをとりながら検討していかなければならない。

【委員意見】

- ・指定管理者はあくまでも営利企業である。儲けにならない事業を継続していくことについて過度な期待はできない。市民が中心となり、指定管理者が支援する、という形に持って行かないとならない。

【事務局回答】

- ・指定管理者は市の意向や要求を汲みながら管理運営を行う。そのために指定管理料を支払うので、絶対にできない、というわけではない。
- ・ただし、指定管理料以上の事業は難しいので、指定管理料と要求のバランスが必要となる。

【委員意見】

- ・指定管理者の組織の中にも、儲けにはならなくても文化事業に積極的に取り組みたい、と考える方もいらっしゃる。とはいえ、市民の体制をどうするかが最も重要である。

【委員意見】

- ・指定管理者が市民ミュージカルについて積極的に取り組んでくださっても、場所の提供や広報協力、これまでの経験での指導者の紹介など、その程度ではないか。やはり、市民グループが母体となることが望ましい。そう考えると、市民の母体は市民会館ができてから発足させるのではなく、その前から今あるものを育てて行かなくてはならない。

【事務局意見】

- ・ご意見の通り、すでに市民団体があり、土台が無いというわけではない。それを活かしながら推進する。
- ・事務局でも市民ミュージカルへの取り組みとして、近隣市の先進事例についてヒアリングなどを行っているが、今活動している市民団体と新たな参加者を募集して、皆と一緒に発表のレベルまでもっていくのは、開館の時期には相当厳しいのではないかと考えている。

【委員意見】

- ・少なくとも、現段階で市民ミュージカルを行っているグループが複数ある。その団体を結ぶフォーラムを作る、また将来的な構想を立ち上げることは、事務局が主導してやらねばならない。
- ・そういった取り組みを行うのであれば、開館までに時間はあるが、順調にいくのではないかと。

【委員意見】

- ・市民組織をつくるのに、28年度いっぱいにかかるだろう。28年度は、母体を明確にしていくこと、事務局の支援体制を構築していくことが、無理のない範囲ではないかと。

【委員意見】

- ・開館記念公演として実施するのであっても、4月にこだわらないのであれば、29年度の後半に発表を行うのも良いだろう。

【事務局補佐意見】

- ・次年度には指定管理者が正式に決定する。28年度に市民ミュージカルの母体となる組織をつくり、指定管理者に対してどのような支援を求めるかを検討する。また、市民ミュージカルの進め方についても、市民グループと指定管理者

の両者で検討を行う。29年度からは実行スケジュールに沿って実際の活動を始め、29年度の終盤に集大成としてミュージカルの発表を行う、という想定はできるのではないか。

【委員意見】

- ・市民ミュージカルも、毎回参加者が違う。変わらないのは主体となる大人であり、継続して参加する子どもは少ない。団体はひとつに限るのではなく、様々な団体と協力しながら進めていくのが良いのではないか。
- ・市民ミュージカルに参加する良さは、地域の団体との協力の中で様々な方と関わりながら準備を進めていくことで、今まで触れ合う機会のなかった子ども達や、地域の方と関わりができることである。しかし1団体の活動になってしまうと偏りができ、結果いろいろな団体が個別に動くことになってしまう。
- ・市民会館の開館をきっかけに、既存団体だけでなく、市も一緒に広く行っていくことが望ましいと考える。

【委員意見】

- ・今の芸術文化は、点の活動になりがちで、面としての広がりがない。本来は行政がネットワーク化をして広げて、面にしていかなければならない。ネットワークを構築するのは行政の仕事である。そういった考え方で、市民会館を運営していくということを、指定管理者にしっかりと伝えていけるかどうか。

【事務局意見】

- ・ご指摘の通りと感じている。指定管理者だけでなく、近隣の他都市とも連絡をとっている。

【委員意見】

- ・市民ミュージカルを実施することは決定する。これまでの市民ミュージカルよりも規模の大きなものになるだろう。何をやりたいか、どんなものを目指すかを考え、早速実現に向けて取り組まねば、すぐに時間がたってしまう。

【委員意見】

- ・指定管理者に任せきりにするのではなく、市民が中心となるという方向性は出されたように思う。既存団体や本委員会の委員がサポートするなど、市民組織をつくる方向で検討してはどうか。指導の先生にすべて頼る訳にはいかない。専門家の方は支援をしてくださるが、主催ではない。

【委員意見】

- ・誰かが労力をかけて取り組まねばならない。そして、将来へと繋がる形を構築したい。ご検討をいただきたい。

【委員意見】

- ・実行委員会は作らねばならないだろう。関わってくれる可能性のある市民には、積極的に声がけをしたほうが良いだろう。

■その他の事業等について

【委員意見】

- ・文化人Aを推薦。

【委員意見】

- ・文化人Aはここ数年間徳島県の邸宅を借りきったイベントなどを行っている。また、イベントAという催しも若者に人気があり、全国で行われている。

【委員意見】

- ・以前、障害を持った方の演奏会を聞いたが、全く違う音の響きに感動した。開館記念事業で実施する、というわけではないが、多くの方に観てもらえたらと

考えている。

【委員意見】

- ・講演会の候補として、文化人Bを推薦。同年代のお母さん方の中にも、聞きたいと言っている方も多い。

【委員意見】

- ・宗教家Aを推薦。

【委員意見】

- ・近隣でも多くお話をされている方なので、時期を考慮しないと重なる可能性がある。

【事務局意見】

- ・文化人Cについて事務局で問い合わせているが、30分程度の講演と、観客とのディスカッションなどであれば、前向きに検討をいただける、とのことだった。

【委員意見】

- ・幼児対象の催しが無い。公演Aを推薦。

【事務局回答】

- ・幼児という視点はこれまでにあまり検討してこなかったが、実施しないというわけではない。

【委員意見】

- ・以前に未就学児と保護者のペア 50～60組を対象としてヴァイオリンコンサートを実施したことがあるが、良い音の楽器が鳴ると、わんぱくな子でも静かに聴く。乳幼児を対象としたクラシックのコンサートはなかなかないので、記念事業ではなく、開館後の事業として検討していただきたい。

(3)その他について

【事務局】

- ・次回第13回は1月25日の月曜日を予定している。場所は同じく観音寺市役所2階会議室である。

4. 閉会

閉会のあいさつ。

以上